

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 邦文



■ 薬学部設置について

3月16日、早朝の飛行機で上京し、文部科学省に平成30年4月1日開設予定の公立大学法人山口東京理科大学の薬学部設置申請書を提出し、受理されました。

薬学部の新規開設は、文部科学省の求める水準（特に教員について）が高く、パスしない申請も少なくないそうですが、本学の場合、姉妹校である学校法人東京理科大学が、全員全国からリクルートしてくれました。平成26年12月26日の本市との協約（役割分担）を守って頂いたといえればそれまでですが、改めて理系分野での同大学の実力を思い知らされました。

文部科学省の事前の予備審査では、ほぼ問題なしだったそうですので、あとの課題は施設の完成時期に絞られてきました。市議会の協力で何度も臨時会を開いて頂き、校舎等建設工事も順調に推移していきそうです。

〈完成予想図〉



▲薬学部校舎完成後の山口東京理科大学

■ 厚陽公民館の大臣表彰

先月、厚陽公民館が優良公民館として文部科学大臣の表彰を受けました。「事業内容・方法等に特に工夫を凝らし、地域住民の学習活動に大きく貢献している」ことが受賞理由です。確かに厚陽公民館の活動の様子を聞くと、受賞の理由もうなずける気がします。

本市では、過去、平成8年に有帆公民館が、平成15年に須恵公民館が受賞したことがあります。今回の受賞は全国で73公民館、山口県では僅かに3公民館でした。しかし、厚陽公民館に限らず、本市にある12の公民館は、地域づくりの拠点施設として高いレベルで運営されていて、ほぼ横一線の状態にあるというのが、私の日ごろの感想です。日ごろ公民館を利用されているみなさん、いかがですか。各公民館のさらなる切磋琢磨を期待しています。

■ サポート寄附

ご存知のふるさと納税（本市では「ふるさとサポート寄附」と呼んでいます）。例年90人前後から400～500万円の寄附を頂いていましたが、平成28年度から他市を参考に返礼品を企画したところ、人数・金額ともに約5～6倍に跳ね上がりました。アンケートの結果では、本市との関連を挙げた方が人数で約3分の1、残りは「返礼品に興味があった」でした。関東在住の方が4割を超えています。「返礼品」も本市の名産品の発信として、また生産に携わる中小企業の振興にとっても有意義な事業ですが、担当課の説明では、全国的に競争が過熱しているなか、本市では制度の趣旨を逸脱しないよう「返礼品の価格は寄附額の3割」を目安に運用しており、近く総務省も全国の自治体に3割を上限とするよう要請すること。ただ残念なのは、本市の市民の中にも返礼品への関心からか、何の縁故もない他市に寄附をしている現実です（確定申告時に、他市の寄附受領書が提出されます）。市民のみなさん、どうかまず第一に本市のサポート（支援）をお願いしますね。